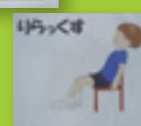
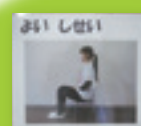
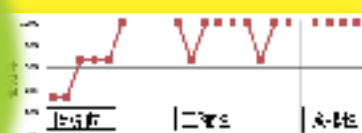


徳島県立総合教育センター
「学校全体で取り組む『できる』」

学校	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1												
2												
3												
4												
5												
6												
7												
8												
9												
10												
11												
12												
13												
14												
15												
16												
17												
18												
19												
20												
21												
22												
23												
24												
25												
26												
27												
28												
29												
30												
31												
32												
33												
34												
35												
36												
37												
38												
39												
40												
41												
42												
43												
44												
45												
46												
47												
48												
49												
50												
51												
52												
53												
54												
55												
56												
57												
58												
59												
60												
61												
62												
63												
64												
65												
66												
67												
68												
69												
70												
71												
72												
73												
74												
75												
76												
77												
78												
79												
80												
81												
82												
83												
84												
85												
86												
87												
88												
89												
90												
91												
92												
93												
94												
95												
96												
97												
98												
99												
100												



—子どもたちの「できる」を学校全体で支援する—





①	発達障がい「まなびのわ」充実事業について	1
②	指導に対する基本的な考え方	2
③	「指導に対する基本的な考え方」に関するQ & A	3
④	「まなびのわ」指導実践マニュアル	4
⑤	「まなびのわ」指導計画立案シート	6
⑥	幼稚園での実践研究	10
⑦	小学校での実践研究	12
⑧	中学校での実践研究	14
【巻末資料】「まなびのわ」指導計画立案シート		

■パンフレットの作成に当たって

「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果（文部科学省，平成24年）」において，小学校及び中学校の通常の学級において知的発達に遅れはないものの学習面又は行動面で著しい困難を示す児童生徒が6.5%程度在籍しているという結果が明らかになりました。

同時に，その6.5%の児童生徒のうち，「いずれの支援※1 もなされていない」児童生徒が約38.6%にのぼることが分かりました。

これらのことから，本調査における協力者会議は「学校に求める児童生徒への支援」について，「学習面又は行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒を取り出して支援するだけでなく，それらの児童生徒も含めた学級全体に対する指導をどのように行うのかを考えていく必要がある」と指摘しています。

その具体例として「社会生活上の基本的な技能を身に付けるための学習を取り入れる」，「学習面又は行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒が理解しやすいよう配慮した授業改善を行う」ことを挙げています。

そこで，徳島県教育委員会では，平成25年度から発達障がいの可能性のある幼児児童生徒に対する「集団の中」での指導や支援方法の開発を目的として，発達障がい「まなびのわ」充実事業に取り組んできました。

阿南市教育委員会（阿南市内の幼稚園，小学校，中学校）の御協力のもと，2年間実践してきた成果をまとめ，今回このパンフレットを作成しました。

本パンフレットが，「通常の学級における集団指導の充実」及び「学校全体でのポジティブ支援体制構築」の一助となれば幸いです。



※1 「いずれの支援」とは，以下の指導や配慮事項のことです。

- ・ 通級による指導
- ・ 特別支援学級に在籍
- ・ 個別的教育支援計画や個別の指導計画の作成
- ・ 特別支援教育支援員による支援
- ・ 授業時間以外での個別の配慮や支援（補習授業の実施，宿題の工夫等）
- ・ 教室内での個別の配慮や支援（座席位置，コミュニケーション上の配慮，習熟度別学習による配慮，個別の課題の工夫等）

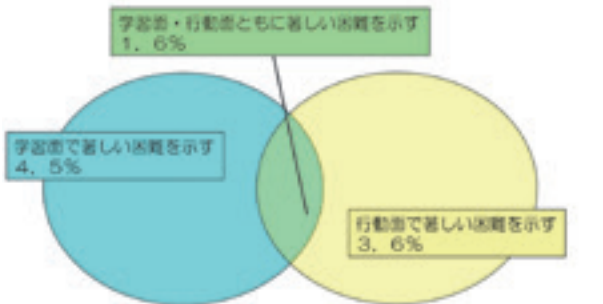
1

発達障がい「まなびのわ」充実事業について

事業の背景（通常の学級における発達障がいの可能性のある子どもたちの現状）

文部科学省の調査結果（平成24年）では・・・

知的発達に遅れはないものの学習面又は行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒の割合



6.5%



そのうち、「いずれの支援（前ページ*1）もなされていない」児童生徒の割合

38.6%

また、一定の基準には達していないけれど、同じような困難さを抱えている子どもたちが存在しています。



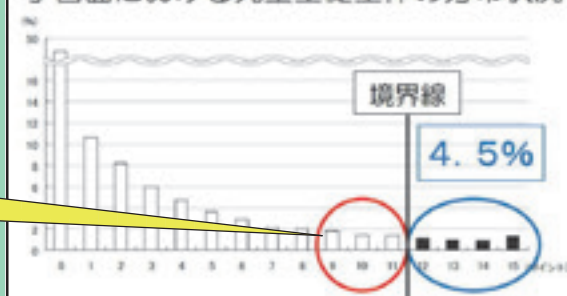
境界線付近の子どもたち



※例えば、「学習面で困難を示す」場合で見ると

境界線となっている12ポイントを超えてはいませんが、直前の10ポイントや11ポイントのチェックを受けている子どもたちがいます。

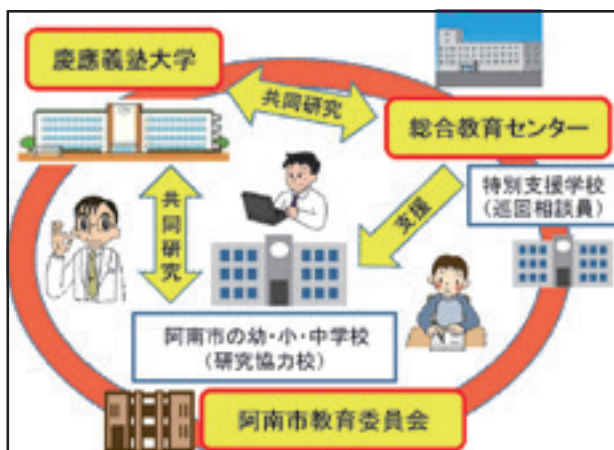
学習面における児童生徒全体の分布状況



このような状況が明らかとなっていることから・・・

発達障がい「まなびのわ」充実事業では

通常の学級における集団活動において、発達障がいの可能性のある幼児児童生徒を含めた一人一人の能力を最大限に引き出す指導内容や、指導方法の充実が重要と考え、汎用性のある学習教材や指導プログラムの開発に取り組みました。



事業実施にあたっては、徳島県立総合教育センター、慶應義塾大学文学部心理学専攻山本淳一研究室及び特別支援教育巡回相談員が連携し、各協力校における実践のサポートを継続的に行いました。

具体的なサポート内容

- ・指導目標や指導手続きの検討
- ・記録表の作成
- ・教材の工夫や作成
- ・記録の取りまとめ など

また、直接訪問だけでなく、随時連絡調整ができるようにWeb掲示板やテレビ会議システムを構築し、活用しました。

2

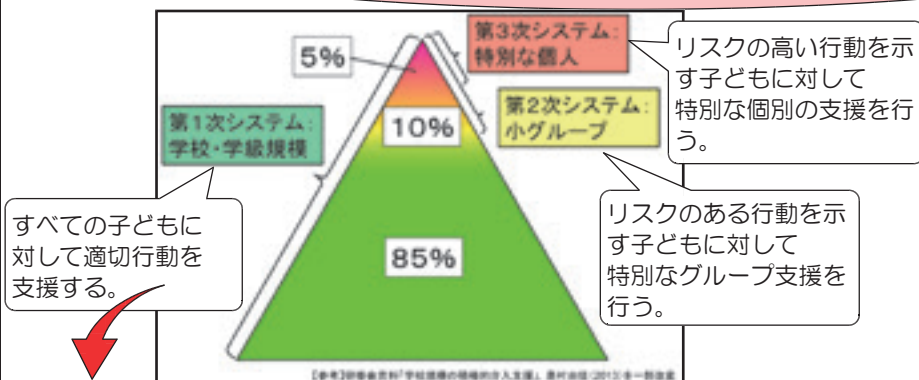
指導に対する基本的な考え方

通常の学級に在籍する発達障がいの可能性のある特別な教育的支援を必要とする子どもへの対応の在り方として、「学校全体で取り組むポジティブな支援」が注目されており、問題行動の解決に向けた個別の支援だけではなく、学校における問題行動の予防に向けた組織的アプローチが重要とされています。

学校全体で取り組むポジティブな支援

学校における問題行動の予防に向けた組織的なアプローチの3つのシステム

プラスの評価



学習集団全体にとって望ましいと考えられる行動を、学校全体が共通理解し、それらを認めたり、プラスの評価をしたりすることにより、さらに行動を引き出し、継続・定着を図る方法論です。



今、インクルーシブ教育システム構築の体制づくりの1つとして、「集団の中」での指導や支援に向けた第1次システムによる指導の充実が求められています。

りゅうちょう
「正確性」「流暢性」を用いた指導

社会性や学業の基礎となる知識や技術を取り上げ、はじめにそれらの正確性を高め、次に正確な反応の速度(流暢性)を高めることで、社会技能及び基礎学力の獲得や応用力の拡大が図れるという研究があります。

ピア・チュータリング

子どもたち同士で互いに教え合うことで学習を促進させる方法で、アメリカではインクルーシブ教育の現場で取り入れられています。



慶應義塾大学の協力のもと、様々な指導理論を取り入れた「指導に対する基本的な考え方」

学校全体で取り組むポジティブな支援
幼児児童生徒の「できる」を学校全体で支援

レベル1 正確性

レベル2 流暢性

レベル3 ピア・チュータリング
(仲間作り)



(注)「基本的な考え方」は、子どもの実態や学級・学校の状況、指導目標等に応じて、変更調整が可能！

例えば・・・
指導目標となっている言動が、既に正確にできている実態であれば、「流暢性」から指導開始！

Q 「正確性」、「流暢性」って何？

A

社会性や学業の基礎となる知識や技術は、生活の中で使えることが重要です。知識として知っているだけや学習場面でのみ使える状況では、機能しません。「学習したことが実際の生活場面で使えるようになること」が大切と言われるのはそのためです。

場に応じて、正しい言動が正確に素早くできることが必要になります。発達障がい「まなびのわ」充実事業では、「正確性を高める学習」のことを「正確性」、「流暢性を高める学習」のことを「流暢性」と呼んでいます。

また、社会性や学業の基礎となる知識や技術を身に付ける手立てとして、「正確性」をレベル1、「流暢性」をレベル2として位置づけています。

例えば、通常の学級で次のような授業参加スキルを練習します。

- 良い姿勢で座る
- 正しいあいさつをする
- 指名されてから、発言をする
- みんなに聞こえる声の大きさと発表する
- 集中して書く など

「正確性」「流暢性」を通して、こうしたスキルが正確に、早くできるように練習します。「流暢性」は、「正確性」が高まってから取り組みます。複数のカード教材等を用いることで、正確で流暢な反応を引き出すことができるようになります。

Q ピア・チュータリングは、なぜ大切なの？

A

ピア・チュータリングとは、ピア・サポートとも呼ばれ、子どもたち同士で互いに教え合うことで学習を促進させる方法です。

「正確性」「流暢性」で学んだことを友達と教え合います。子どもたちは教えられることは多いですが、教える経験は少ないです。教え合うことは、子どもたちの自尊感情を高めるのに非常に有効です。



Q 「正確性」、「流暢性」、「ピア・チュータリング」の指導をする期間は決まっているの？どんなタイミングで、次の段階の指導へと移っていくの？

A

指導をする期間について、確定的なものはありません。子どもたちの変容ぶりに応じながら指導を展開していきます。

発達障がい「まなびのわ」充実事業では、子どもたちの変容ぶりを客観的に評価できるように、設定した場面や観点で評価を行い、記録を取るようになっています。

また、次の段階へ指導を進める際の目安となる「達成基準」や、効果の上がない指導を続けることを避けるための目安となる「中止及び改善基準」を設けるようになっています。

このように、「評価及び記録」と「基準」を明確にしておくことにより、円滑な指導を実現しています。

Q 学校全体で取り組むポジティブ支援とは？

A

学習集団全体にとって望ましいと考えられる行動を学校全体が共通理解し、それらを積極的に認め、プラスの評価をしていく支援システムです。この支援システムが整えば、子どもたちの行動をさらに引き出し、継続・定着といった指導効果の向上が期待されます。

例えば、朝の会、授業、学年集会、学校朝会、家庭へのお便り等を利用して、学級や学校全体、家庭で子どもをほめる機会を計画的に設定します。学校全体でサポートする（学校全体で取り組む支援）体制を整えることで、学習能力や社会性の一層の向上が期待されます。

発達障がいの可能性のある子どもたちだけでなく、学級全体、学校全体の子どもたちの成長につながる支援です。



4

「まなびのわ」指導実践マニュアル

「まなびのわ」指導実践マニュアルとは、前述の「指導に対する基本的な考え方」を生かした指導を展開する時の手順、必要な手続きや大切なポイントを示したものです。

0

**全体
(クラス・学年・学校)
の実践把握を
しましょう。**

- (1) 良い所を10個書く。
- (2) 課題となる所を5個書く。

※「良い所を増やし、相対的に悪いところを減らす」指導を行います。そのため、良い所にしっかり注目することが大切です。

1

**指導目標を
設定しましょう。**

個人の課題だけに
注目するのではなく、
集団の課題との関係性を
考える。

※指導目標は、毎日教えることができ、指導の機会が多く設定できることがポイントです。

※必要に応じて、段階的な指導を計画しても良いでしょう。

※具体的に記載しておくことで、指導がイメージしやすくなり、他者や他校での再現性が高まります。

6

**「正確性」「流暢性」
「ピア・チュータリング」
の指導の手続き、教材、
配慮事項等について
計画しましょう。**

それぞれの段階における
教材の使い方、ことばかけの仕方、
手続きの流れを具体的に書く。



※どのような記録表を作成するかがポイントです。
※「備考欄(様子のちょっとした記録)」があると良いでしょう。

記録用紙の例

6/20金	5	校時	1	0	1			1	1	1
6/23月	5	校時	1	1	1			1	1	1
6/24火	1	校時	1	1				1	1	1
6/25水		校時				赤穂城↑	(授業の後半)			
6/26木	1	校時	1	0	1			1	0	1
6/27金	5	校時	1	1	1			1	1	1

2

記録の取り方を決めましょう。

- (1) 記録を取る場面や観察するポイントを決める。
- (2) 記録表を作成する。

3

判定基準(評価)を決めましょう。

○△×, 1点2点3点等,
評価と評価の基準を
明確に決める。

※判定基準(評価)を明確にしておくことは、
一貫した評価につながります。

※指導当初から行える支援や指導最終段階で取り入れられる支援等,様々なものが考えられます。
※校内に現在すでにあるもの,実践しているもので活用できるものがあるかもしれません。活用できるものを探してみましょう。

例: 子どもたちの良い所をしっかりほめる
全校朝会での賞賛
児童・生徒会活動からの表彰
自己チェックカード活用による評価
うまくいっている支援や取組の校内拡大

4

指導スケジュールを決めましょう。

指導の全体的な見通しが持てるよう,
「事前評価」(指導前の状態確認),
「指導」,「事後評価」
(指導後の状態確認)を行う
期間を設定する。

5

学校全体で取り組む ポジティブな支援を 計画しましょう。

子どもたちの良い行動を増やすために,
学校全体で取り組める方策を考え,
全教職員の共通理解を図る。

※事前評価の開始時期以外は暫定的なものです。
※事前評価の状況や評価の変化によって,指導時期が決まっていくので,指導スケジュールについては,その都度記入し,指導後に確定となります。

担任のニーズや子どもたちの実態に応じた指導手続きや教材の工夫等を加えることによって、「指導実践マニュアル」をより具体化するツールが「まなびのわ」指導計画立案シートです。

「まなびのわ」指導計画立案シート NO. 1

0 全体(クラス・学年・学校)の実態把握

良い所を10個書いてみよう！

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

※良い所にしっかり注目しましょう！
「良い所を増やし、相対的に悪い所を減らす」

課題となる所を5個書いてみよう！

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

「協力校の先生の感想」

子どもの良いところや課題がよくわかり、目標が明確になりました。



1 指導目標の設定

個人の課題

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

良い部分に目を向けることは大切なこと！
個人の課題と集団の課題との関係性を考えてみよう。

指導目標

- ・

【チェック！】※毎日教えられるくらいの目標ですか？ 指導の機会を多く設定できますか？

2 記録の取り方

記録を取る場面や観察するポイント、評価の基準をしっかりと決めておきます。
どのような記録表を作成・使用するかも重要なポイントです！

3 判定基準(評価)について

○・・・
△・・・
×・・・

※記録用紙には「備考欄(様子等のちょっとした記録)」があると良いと思います。

「協力校の先生の感想」

学校全体で目標を共通理解し、取り組むことができました。
(管理職も指導目標に関連する子どもの行動をほめてくれました。)

4 指導スケジュール

事前評価	月	日～	月	日
指導	月	日～	月	日
事後評価	月	日～	月	日

5 学校全体で取り組むポジティブな支援

※子どもたちの良い行動が増えるために、学校全体として取り組める方策を考えてみよう。

学校全体で取り組めることを考えてみよう。
校内に今あるもの、実践しているもので活用できるものはありますか？

「まなびのわ」指導計画立案シート NO. 2

「協力校の先生の感想」

6 指導実践

正確性を高める学習

(指導の手続き・使用教材・ルール等)

(達成基準・中止及び改善基準)

(改善点)

流暢性を高める学習

(指導の手続き・使用教材・ルール等)

(達成基準・中止及び改善基準)

(改善点)

ピア・チュータリング

(指導の手続き・使用教材・ルール等)

(達成基準・中止及び改善基準)

(改善点)

指導に関する基本とする考え方を生かした指導計画が立案できました。



正確性、流暢性、ピア・チュータリングのそれぞれの段階において、指導の手続きやどのような教材を使用するかを考えて記入します。子どもへの伝え方、明確なルール等も重要な内容となります！（再現性が高まります。）

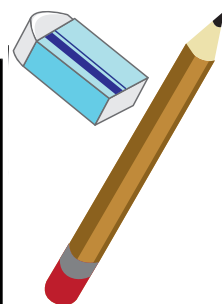
次の段階へ指導を進める際の目安となる達成基準や、指導の効果が見られない場合に中止したり、指導手続きの改善を検討したりする目安となる基準を事前に設定しておくことで、指導を円滑に進めることができます。

「協力校の先生の感想」

指導の手続きや教材を共有できるので、実践の再現に役立ちました。



このシートは、子どもの実態把握や目標の明確化、スムーズな計画立案や情報の共有等に有効であったと評価されています。また、実践を校内に広めたり、他校で再現したりする上で、効果がありました。



「まなびのわ」指導計画立案シート No. 1

0 全体(クラス・学年・学校)の実態把握

良い所を10個書いてみよう！

- ・元気, 明るい。
- ・園生活を楽しんでいる。
- ・製作は自分の力でしようとする。
- ・友だちと関わるのが好き。
- ・みんなと一緒に行動できる。
- ・身近にある材料等を使って遊ぶことができる。
- ・時計を見て次の活動を意識する園児が多い。
- ・よくないことをした時には素直に謝ることができる。
- ・困った時は先生や友だちに伝えることができる。
- ・苦手なものも少しは食べることができる。

課題となる所を5個書いてみよう！

- ・友だちの嫌がることをしつこく言う, しつこくする。
 - ・床に座るときや並ぶ時, じっとできる時間が短い。
 - ・給食などみんなが集まった時に静かにするのが難しい。
 - ・座る時や並ぶ時に姿勢が悪い。
- (ex: 机から離れる, 浅く座る, 友だちに触る)

※良い所にしっかり注目しましょう！

「良い所を増やし, 相対的に悪い所を減らす」

1 指導目標の設定

個人の課題

- ・イスに座る時, 足を組んでいる。(A・B)
- ・浅く座る。(A・B)
- ・話を聞く時, 横の子と話をしている。(A)
- ・身の回りの物を口に入れながら話を聞いている。(B)

指導目標

- ・イスに良い姿勢で座る(机なし)

【チェック！】※毎日教えられるくらいの目標ですか？ 指導の機会を多く設定できますか？

2 記録の取り方

- ・朝と降園時の集まり開始時と終了時を記録の対象の時間とする。
- ・記録の対象となる園児2名が, 教員が記録しようとした時に足・背筋・手・顔の向きの4つのポイントにおいて, それぞれ正しくできているかを記録する。

3 判定基準(評価)について

○・・・背筋が伸びている, 足は揃えて床についている, 手は膝の上に置いている, 顔が先生のいる方向を向いている。

×・・・上記のことができなかった。

※記録用紙には「備考欄(様子等のちょっとした記録)」があると良いと思います。

評価基準を明確にしておくことは, 一貫した評価につながります。

4 指導スケジュール

事前評価	6月 9日～6月12日
指導	6月13日～7月15日
事後評価	7月15日～9月 日

5 学校全体で取り組むポジティブな支援

※子どもたちの良い行動が増えるために, 学校全体として取り組める方策を考えてみよう。

- ・園全体の集会時に, 良い姿勢の園児を園長先生がほめる。
- ・協力クラス以外のクラスでも同じように取り組む。

1枚目のシートで, 個人や集団の実態把握から指導目標の設定や記録場面の設定など, 指導計画の全体像を描くことができます。

2枚目のシートでは, 目標達成に向け, 「指導に関する基本の考え方」を生かした段階的な指導計画が立案できます。



「まなびのわ」指導計画立案シート No. 2

6 指導実践

正確性を高める学習

6月13日～6月27日

(指導の手続き・使用教材・ルール等)

〈ステップ1〉

- ・朝と降園時の集まり開始時に「良い姿勢」を練習する時間を設定する。
- ・部分ごとに「良い姿勢」の写真(教員)を見せながら「あし べったん」(確認→賞賛)「せなか ピン」(確認→賞賛)「ては おひざ」(確認→賞賛)「かお せんせい」(確認→賞賛)と言う。
- ・できている園児から順番にほめる。
- ・最初は、良い姿勢ができていない場合は個別にことばかけ等を行い、良い姿勢になるよう働きかける。

〈ステップ2〉

- ・朝と降園時の集まり開始時に「良い姿勢」を練習する時間を設定する。
- ・「良い姿勢」と言いながら良い姿勢のカードを見せる。
- ・できている幼児から順番にほめる。
- ・最初は、良い姿勢ができていない場合は個別にことばかけ等を行い、良い姿勢になるよう働きかける。

(達成基準・中止及び改善基準)

適切行動(足を揃えて床につける、背筋を伸ばす、手を膝の上に置く、顔を教員の方に向ける)の得点において、満点(8点)が連続して3日以上続けば達成。

- (2点)・・・ことばかけ無しでできた。
- △(1点)・・・ことばかけありでできた
- ×(0点)・・・上記のことができなかった

(改善点)

流暢性を高める学習

6月30日～7月3日

(指導の手続き・使用教材・ルール等)

- ・朝の集まり開始時に「姿勢ゲーム」をする。
- ・「良い姿勢のカード」「リラックスカード」を準備する。
- ①全員を座らせ「これから姿勢ゲームをします」と言う。
- ②「この絵(子ども達が仲良く話しているような絵)が出たら、良い姿勢をしないで友だちとお話して良いです。」
- ③「先生が「こっちに向いて(or先生見て、等々)」と言って、この写真(足、背中、膝、顔が1枚になったもの)を見せたら、できるだけ速く良い姿勢をします。」
- ④「それではやってみましょう。」
- ⑤できたら「速いね」とほめる。
- ・3回ぐらい繰り返す。

(達成基準・中止及び改善基準)

適切行動(足を揃えて床につける、背筋を伸ばす手を膝の上に置く、手を膝の上に置く、顔を教員の方に向ける)の得点において、満点(8点)が連続して3日以上続けば達成。

- (2点)・・・ことばかけ無しでできた。
- △(1点)・・・ことばかけありでできた
- ×(0点)・・・上記のことができなかった

(改善点)

ピア・チュータリング

7月8日～7月15日

(指導の手続き・使用教材・ルール等)

- ・朝の集まり時に行う。
- ・園児を2つのグループ(係当番のグループ)に分ける。
- ・1つ目のグループがイスを持って前に出て、イスを並べて座る。
- ・1つ目のグループの中から1人前に出て、先生役になり、「表紙」「良い姿勢のカード(2枚)」「リラックスカード(1枚または2枚)」「はなまる」カードをめくる。(めくったカードは箱に入れる。)
- ・「はなまるカード」が出たら、もう1つのグループの園児がほめる。
- ※先生役は1日1つのグループから3～4名が交代して行う。全員が先生役ができるようにする。
- ・「良い姿勢のカード」「リラックスカード」が毎回同じ並びにならないように、先生があらかじめセッティングしておく。(最後の2枚は「良い姿勢」「はなまる」の順にする。)

〈ゲームの進め方〉

- ①1つ目のグループがイスを持って前に出て、イスを並べて座る。
- ※(先生)前に出ないグループの園児が「はなまるカード」が出たらほめること、交代して行うことを説明する。
- ②先生役の園児が1人前に出て「これから姿勢ゲームをします」と言う。
- ③先生役の園児がカードをめくる。(めくったカードは箱に入れる。)
- (先生役の園児が、同じグループの園児の姿勢を確認する間が持てるよう、支援する。)
- ④「はなまるカード」が出たら、もう一つのグループの園児がほめる。
- ⑤同じグループから先生役を交代して②～④を行う。
- ⑥2つ目のグループと交代して②～⑤を行う。

(達成基準・中止及び改善基準)

80%以上の正確率で達成

(改善点)

できていない時の対応方法も書かれていると、指導が統一され、子どもたちの安定につながります。

伝え方や指示の出し方も重要なポイントです！
指導の場面がイメージできるように書いておくと、再現しやすくなります。



6

幼稚園での実践研究

指導目標

イスに良い姿勢で座る

～ ポジティブ支援の広がりを目指しました ～



正確性

指導前の様子

足がバラバラ、荷物が散乱。



足、背中、手、顔の

正しい位置を丁寧に教える。



できたら、すぐほめる。

これが肝心！



そう！
上手！

朝と降園時の会に練習時間を設定。正しい姿勢の写真カードを見せて良い姿勢の子をほめました。すぐ良い姿勢ができる子、それを見て姿勢を直そうとする子が見られ始めました。

流暢性

これから
姿勢ゲームをします。



できるだけ速くカードのとおり
しましょう。では、ヨーイドン！



素早くできたことを
ほめるのがポイントです。



速いね！

姿勢ゲームをして素早く良い姿勢をとる練習をしました。できた子は「速いね！」とほめました。子どもたちは楽しみながら、素早く良い姿勢を取ることを身に付けていきました。

ピア・チュータリング

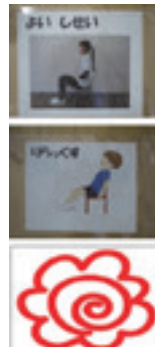
子どもたちを
3つのチームに
分けました。

子ども役
できるだけ速くカード
のとおりにする。

先生役
カードをめくって
子ども役に指示
する。

観察役
子ども役をよく見て
上手な子をほめる。

3種類の
カード教材

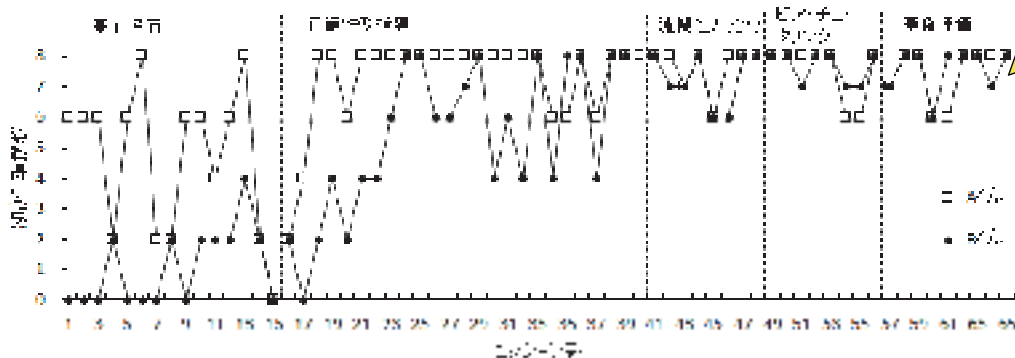


友だちに見られるのは
ちょっと緊張…



子ども同士で姿勢ゲームをしました。先生役の子の指示通りに素早く良い姿勢をしました。周りの子は上手にできた子をほめました。友だちからほめられるのでとてもうれしそうです。

記録と成果



- ・特に姿勢が崩れていた2名(A, B)が大きく改善しました。
- ・他の子どもたちも着席姿勢が目に見えて良くなりました。
- ・ゲーム等により、子どもたちは楽しみながら学習できました。
- ・特に指導していない「カバンをひざに抱える」ことも、子どもたちは自ら学習しました。

取組終了後も良い姿勢は維持されました。
写真は、夏休みの登園日です。



ポジティブな支援の広がり

指導の再現

既にある教材や指導手続きを、別の対象にも実施しました。

隣のクラスでも姿勢の指導をしました。

指導の進め方や教材がそろっているので、同じように指導するのは比較的容易でした。



ちょっと難しい指導目標「挙手して発言する」に取り組みました。

就学のための基礎スキルとして発表ルールの練習は大切です。

指導の深まり

簡単な指導目標(良い姿勢)の成功が、難しい指導目標(発表ルール)の指導を容易にします。

指導の拡大

管理職は、ポジティブな支援拡大のキーパーソンです。

園全体の集会で、園長先生が姿勢をほめてくれました。

すべての子どもたちへのポジティブな支援の拡大となります。



7

小学校での実践研究

指導目標

イスに正しい姿勢で座る

～ 前年度他校で実施した指導の再現を目指しました ～



正確性

正しい姿勢ってどんな姿勢？



かけ声とイラストを使って、正しい姿勢の4つのポイントを、クラス全体で確認しました。1つ1つのポイントを確認しながら練習し、子どもたちのできている部分を積極的にほめました。

流暢性

正しい姿勢にすぐなれるかな？

正確性で用いたかけ声
＋
4種類のカード

4種類のカード

「姿勢を正しましょう」のことばかけ
＋
1種類のカード

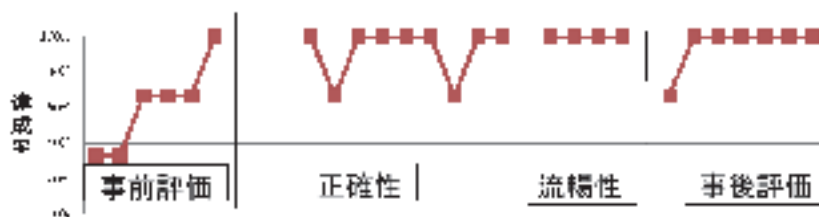
正しい姿勢がスピーディーにできるように支援を減らしていきました。最終的には、「姿勢を正しましょう」のことばかけとともに、正しい姿勢がまとめられたカード1枚のみを提示するようにしました。



姿勢を
正しましょう！



記録と成果



実践中は、「姿勢」に関する観察記録を取りました。記録を取ることで、子どもの変化がよく分かりました。

学校全体での ポジティブな支援

校内委員会の開催



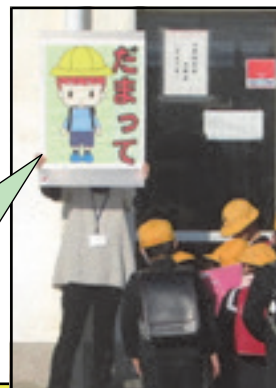
職員会で協議し、校内で共通理解

どんな場面で何を教えるの？

実践成果を受け、学習態度の基本となる「姿勢」を目標として、学校全体で取り組むことを決定しました。



子どもたちが意識して静かにできるための視覚的支援として、大きなボードを作成しました。全校集会や集団下校時に活用し、大変効果が見られました！



姿勢についての考え方

全校集会や集団下校での「姿勢」
→静かに素早く行動し、適切な態度をとる。

相手に対する「姿勢」
→お客さんや先生に会ったら、挨拶や会釈をする。



姿勢についての指導の視点

学級では・・・①学習の始まりと終わりはしゃべらない。
②正しい姿勢で挨拶する。
移動教室へは・・・③並んでしゃべらず移動する。

3つの評価方法を用いて、子どもたちの「姿勢」を、積極的に評価しました。

自己評価

毎日帰りの会で行っているチェックカードの項目に「姿勢」に関する内容を追加しました。

通学路を守れたか。
()
ろう下の右側を歩けたか。
静かに両手まで指先ができたか。
あいさつやえしゃくができたか。
友だちのことを考えて行動できたか。
いすに正しい姿勢ですわることができたか。
教室を移動するときしゃべらずに歩けたか。

担任からの評価

姿勢に関し、よくできていたら、担任がほめ、シールを貼るようにしました。各クラスの廊下にごんぱりシールを掲示したことで、子どもたちのやる気もアップ！



学校全体での評価

毎日行っているチェックカードの集計結果を、朝会で児童会が発表したり、校長先生や教頭先生など、担任以外の先生が「姿勢」のできているところを見つけてプラスの評価をしたりしました。



学校全体での取組について（アンケートより）

- ・学校全体で足並みをそろえて取り組むと効果的なことがよく分かりました。
- ・周りが落ち着くと支援が必要な子も落ち着いていくことが分かりました。
- ・ポジティブ支援をすることで自分自身がポジティブになっているように思いました。
- ・学校全体で行ったことでほめる機会が増え、あらゆる活動でプラス効果があったと思います。



8

中学校での実践研究

指導目標

英単語の視写作業で書き写すことのできる文字数が増える

～学習スキルの獲得を目指しました～

正確性

「正確に書くこと」の意義を確認する！



- ① 単語のスペルを間違えずに覚えることができる。
- ② 英語の成績が上がる。
- ③ 細かいところまで集中して見る力が高まる。



朝の活動の時間に英単語の書き写し課題を設定しました。初回には、「正確に書くこと」の意義を説明し、生徒自らが意識して活動に取り組めるよう配慮しました。



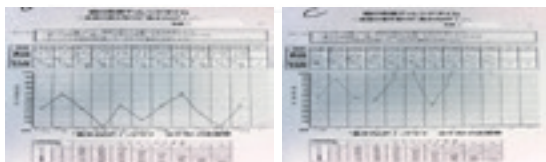
指導の実際

「視写用見本」

視写する問題番号（例：1～5）を伝え、単語を書き写してもらいます。英単語のプリントは、既存のものを使用することで新たな教材を作成する必要がなくなりました。(*^o^*)

Unit Test use-01

問題番号	単語	問題番号	単語
1	彼女	She	girlfriend
2	働く	work	hard
3	有名な	Famous	person
4	教える	Teach	well
5	言葉	Language	good
6	文化	Culture	good
7	新しい言葉	New	word
8	よく、よく	often	



「自己チェックシート」

書くことのできた単語数や小テストの結果を生徒に記入してもらいました。結果を視覚的にとらえることができ、意欲の維持・向上につながったように思います。

自己チェックシート

書けた単語数

小テスト
正解問題数

小テスト
正解率グラフ

正解率算出
の換算表

ピア・チュータリング＋正確性

視写したノートを友だちと交換！

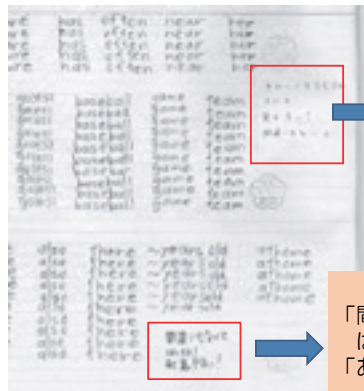
視写したノートを友だちと交換



付箋にアドバイスやほめことばを書いて貼る



ノートを友だちに返す



「きれいにそろえて
いて見やすい！」
「間違いもないよ」

「間違いもなくて
ばっちり！」
「あと見やすい！」

中学生という発達段階からみると大変効果的な方法でした。また、ノート交換をするペアは毎回変えるよう配慮しました。

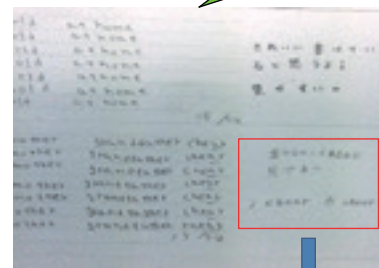
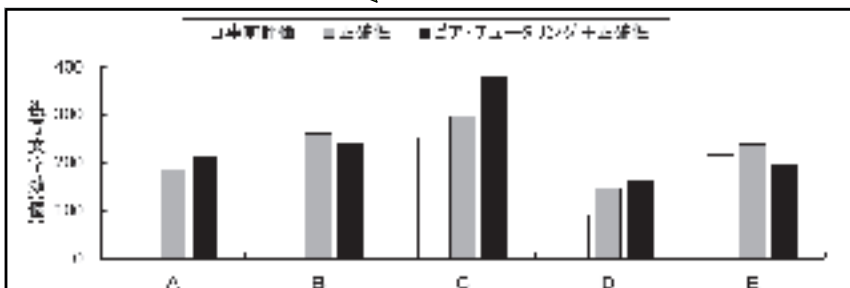
記録と成果



観察対象生徒の5名中4名
において視写文字数の増加
がみられました！



友だちのアドバイスが、小テストの結果に結びつきました。
集中して書く、丁寧に書くことが増えてきました！



「× cheer ○ cheer」



指導者より

- ・単語を覚えるには大変効果的な方法であった。
- ・早い時期にこのようなスキルを獲得することが大切である。
- ・効果が見られにくかった生徒に関しては、指導の手立てを改善していきたい。
- ・朝の学習の他の教科（国語）でも実施することが可能である。
- ・今後、この取組が成績の向上につながり、それを生徒たちが実感できるよう、工夫していきたい。



「まなびのわ」指導計画立案シート NO. 1

0 全体(クラス・学年・学校)の実態把握

良い所を10個書いてみよう！

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

課題となる所を5個書いてみよう！

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

※良い所にしっかり注目しましょう！

「良い所を増やし、相対的に悪い所を減らす」

1 指導目標の設定

個人の課題

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

指導目標

- ・

【チェック！】※毎日教えられるくらいの目標ですか？ 指導の機会を多く設定できますか？

2 記録の取り方

3 判定基準(評価)について

○・・・

△・・・

×・・・

※記録用紙には「備考欄(様子等のちょっとした記録)」があると良いと思います。

4 指導スケジュール

事前評価	月	日～	月	日
指導	月	日～	月	日
事後評価	月	日～	月	日

5 学校全体で取り組むポジティブな支援

※子どもたちの良い行動が増えるために、学校全体として取り組める方策を考えてみよう。

「まなびのわ」指導計画立案シート NO. 2

6 指導実践

正確性を高める学習

(指導の手続き・使用教材・ルール等)

(達成基準・中止及び改善基準)

(改善点)

流暢性を高める学習

(指導の手続き・使用教材・ルール等)

(達成基準・中止及び改善基準)

(改善点)

ピア・チュータリング

(指導の手続き・使用教材・ルール等)

(達成基準・中止及び改善基準)

(改善点)

発達障がい「まなびのわ」充実事業では、「正確性」、「流暢性」、「ピア・チュータリング」という方法を通して、幼児児童生徒一人一人の能力を最大限に引き出し、それぞれの学校が目指すポジティブな支援の取組を行いました。

「正確性」、「流暢性」、「ピア・チュータリング」は、社会性や学業の基礎となる知識や技術を習得するためだけでなく、アイデア次第で様々な場面で応用できる機能的な指導方法です。



慶應義塾大学先導研究センター
共同研究員
是村 由佳氏

ポジティブな支援の土台は、幼児児童生徒の適切な行動を、教師がにこやかにたくさん認めてあげることです。それによって一人の幼児児童生徒の笑顔が、クラスの友だちや、学校の友だち、学校全体に広がります。

みなさんも 実践してみませんか？



発達障がい「まなびのわ」充実事業での取組は、徳島県立総合教育センターの研究紀要において報告しております。

徳島県立総合教育センターホームページから閲覧できますので、御覧ください。

検索キーワード：徳島県立総合教育センター，研究紀要，
通常の学級，ポジティブ

●このパンフレットについてのお問い合わせ●

徳島県立総合教育センター

〒779-0108 徳島県板野郡板野町犬伏字東谷1-7

TEL 088-672-5200

E-mail : tokubetsushien@mt.tokushima-ec.ed.jp

